

「自分ひとりの居場所」の志向 に関する検討

—「安心できる人」評定、
ひとりで過ごす感情・評価及び孤独感との関連—

岡村 季光（奈良学園大学）

本研究における「居場所」の定義

自分が安心していただける場所

- ここでいう「安心」とは、**落ち着く・ホッと**する等の感覚

生態学的視点 (Bronfenbrenner, 1979; 1995) 及び3間 (“さんま” “さんげん”) (例えば内藤, 1994) と呼称される “**時間**” “**空間**” “**人間**” 3つの観点から「居場所」を捉える。

- “時間” (安心して**ける時**)
- “空間” (安心して**ける場所**)
- “人間” (安心して**ける人**)

上記3つの観点の中で「**安心してける人**」は「居場所」の個人差があり、特に重要な位置づけである

「ひとりで過ごす居場所」の評価

積極的評価

- 杉本・庄司（2006）
 - 青年期において「自分ひとりの居場所」を志向することが増え、その**固有の心理的機能も確認**。
- 増淵（海野）（2014）
 - ひとりの時間は「**自己内省**」の意味を持つ。個人的活動に没頭することで充実・満足感を得られ、**自我同一性形成**に役立つ。

消極的評価

- 石本（2009）
 - 個人的居場所と**精神的健康は有意な相関がみられない**。
（社会的居場所の確保と精神的健康は正の相関）
- 若山（2001）
 - 個人的居場所は安心感を得られる意義はあるものの、**「ひきこもり」の舞台**になる。

ひとりで居ることの見解が分かれる要因

- 「自分ひとりの居場所」を志向する要因が異なるため個人差を生んでいるのでは？

- 岡村（2016）

- 自分ひとりの居場所を志向する要因は、**ひとりで過ごすことによる充実感や満足感**によって規定。さらに両者の関係には、**ひとりで過ごすことの孤独感や不安感を感じない要因が媒介。**

- しかし、普段他者とのつながりをどれほど感じられているか否かについては触れられていない。

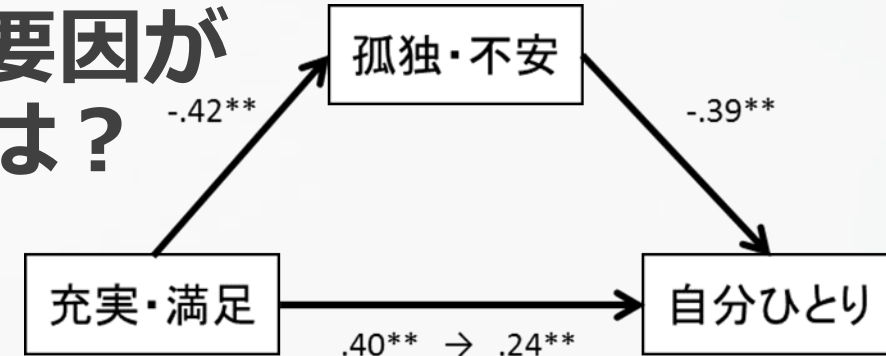


図1 安心できる人を規定する媒介要因（男子）

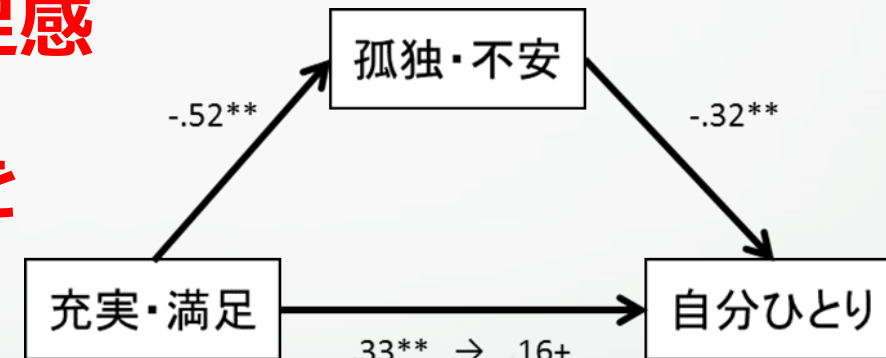


図2 安心できる人を規定する媒介要因（女子）

本研究の目的／方法

- 以下を測定し関連を検討。
 - 居場所（安心できる人）の評定
 - ひとりで過ごすことに関する感情・評価
 - 孤独感〔他者とのつながりが感じられているか否か測定〕
- 調査内容
 - a. 「居場所」（安心できる人）調査
 - “あなたは以下の人と居る時に安心できますか”という教示を行い、
“自分ひとり” “父親”
“母親” “きょうだい”
“現学校以前の友人”
“現学校以降の友人”
“恋人”という場面を設定。
- 調査対象
 - 近畿圏内に在住の大学生
189名（男子86女子103）
平均年齢19.94歳
（SD1.11）

方法（続き）

● 調査内容（続き）

b. ひとりで過ごすことに関する感情・評価尺度

（ひとり感情・評価尺度）（増淵（海野），2014）

- “**孤独・不安**” 11項目（例 「ひとりの時間」はさみしい）
- “**自立・理想**” 8項目（例 「ひとりの時間」を楽しめるようになりたい）
- “**充実・満足**” 4項目（例 「ひとりの時間」の過ごし方に満足している）
- “**孤絶願望**” 3項目（例 人と一緒にいることが苦痛だ）

c. UCLA孤独感尺度第3版短縮版（孤独感尺度）（豊島・佐藤，2013）

- Russell（1996）が開発した尺度の日本語版及び短縮版。

単一因子で逆転項目3項目を含む計6項目

（例：まわりに人はいるけれど、心は通っていないと感じる。）

結果（安心できる人評定による分類）

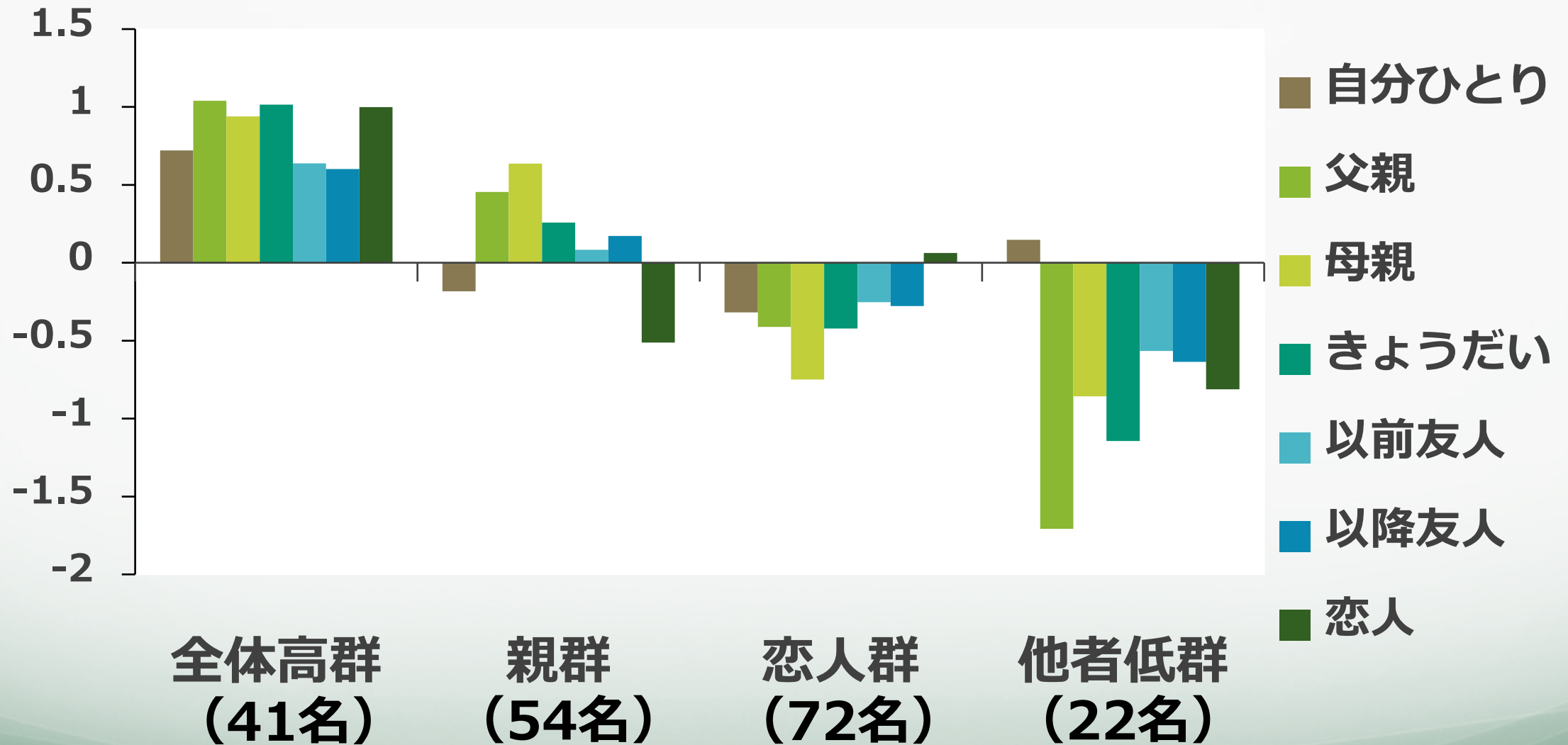


図3 居場所（安心できる人）による分類（カッコ内は人数）

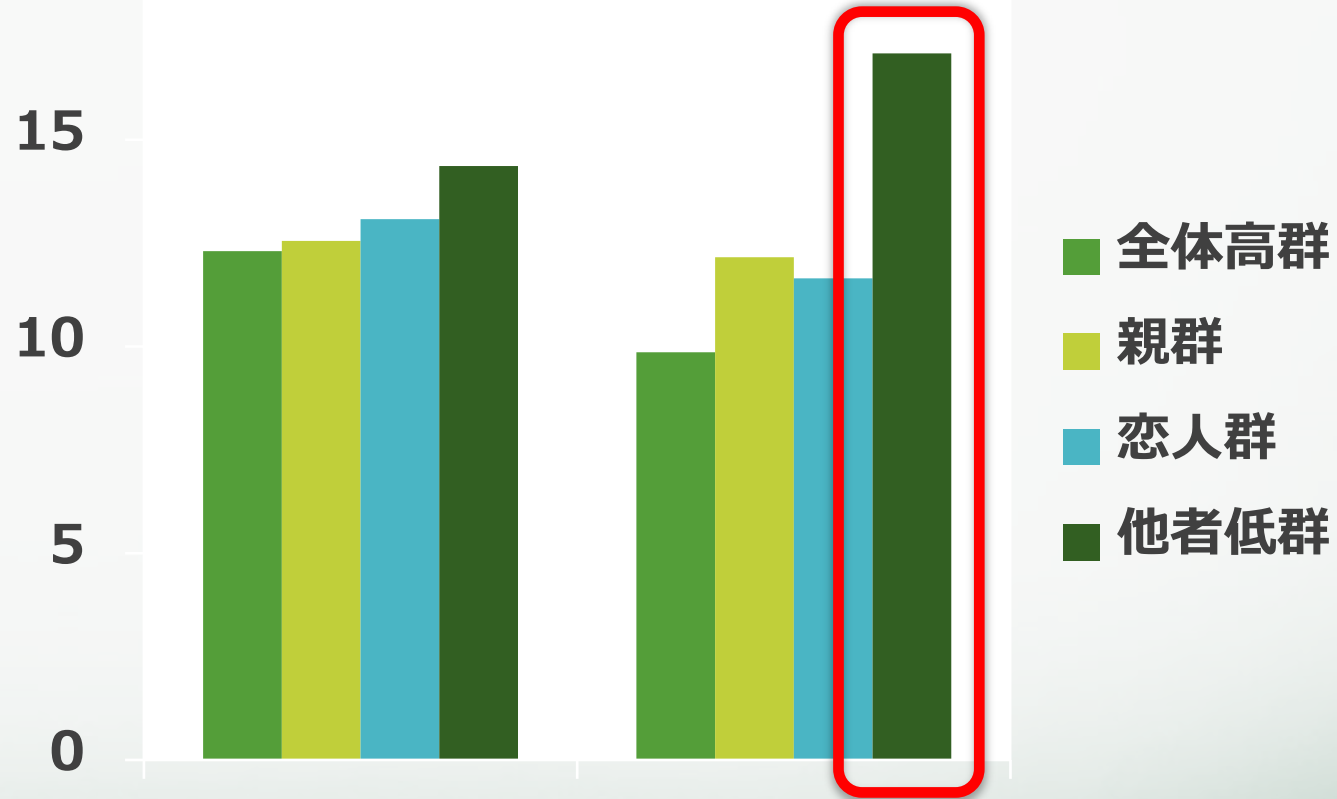
結果／考察

“孤独・不安”得点の高い者は、安心できる者が誰であろうと、普段から他者とのつながりを感じており、その結果、孤独感はさほど高まらなかったのかもしれない。

一方、同得点の低い者で、かつ“他者低群”は、普段から他者とのつながりを感じられず、その結果、他群と比して孤独感が高まったと考えられる（工藤・西川, 1983; Peplau & Perlman, 1982）。

20 安心できる人群間の主効果 ($F(3.181)=10.70, p<.001, \eta_p^2=.15$) 及び交互作用 ($F(3.181)=3.60, p<.05, \eta_p^2=.06$) が有意

孤独感尺度得点



孤独・不安高群 孤独・不安低群

図4 居場所（安心できる人）評定と孤独感の関係